社会科学

〔研究テーマ〕

1 中小ベンチャー企業支援における産業支援機関の役割に関する研究

2 ビジネスインキュベーション施設のガバナンスと評価

3 地域資源活用のストーリーづくりー実践教育のテーマとして



丹生　晃隆

たんしょう　てるたか
地域資源創成学部

教授

キーワード

中小ベンチャー企業、企業家育成、産業支援機関、ビジネスインキュベーション施設、インキュベーション・マネジャー（IM）、政策評価、支援者、地域産業振興、産学官連携、コーディネート・リエゾン、地域資源活用、実践教育、ビジネスモデル、マネジメント

特許情報・共同研究・応用分野など

【科学研究費補助金】

1）基盤研究（C）（代表）
卒業企業の評価に基づくビジネスインキュベーション施設の政策的効果の検証
（2026－2028年度）

2）基盤研究（C）（代表）
中小ベンチャー企業支援における公的支援機関の役割に関する研究
（2015－2017年度）

3）若手研究（B）（代表）
ベンチャー企業支援者のインセンティブ要因に関する研究
（2011－2013年度）

研究概要

広くは、地域産業振興や中小ベンチャー企業支援、産学官連携に関わる領域を研究対象としています。産業支援機関のうち、特に、ビジネスインキュベーション施設を対象とした研究を行ってきました。現在までの研究アプローチとして、質問票調査等を通じて一次データを取得し、データを分析することで、仮説の検証や成果の評価を行うことに主眼を置いています。インキュベーション施設での企業支援や産学官連携のコーディネート活動の実務経験があり、現場の視点を重視した研究を心掛けています。

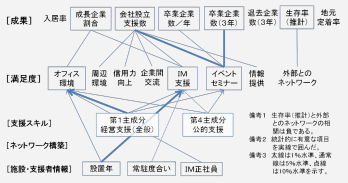
1 中小ベンチャー企業支援における産業支援機関の役割に関する研究

産業支援機関の評価の難しさについて、政策を行った際（with）の成果と、仮に行わなかったとした際（without）の状況との明確な検証ができないことが挙げられます。本研究では、公的なインキュベーション施設に入居している企業（入居群）と、同時期にインキュベーション施設に入居していない企業（非入居群）を設定し、比較検証をすることで、公的な支援施策の政策評価を行うことを目的にしています。

2 ビジネスインキュベーション施設のガバナンスと評価

日本では数多くのインキュベーション施設が設置されていますが、支援活動に対する評価は現在までに十分行われてきませんでした。

右図では、施設の設置年（新しさ）や経営支援全般に関わる支援スキルが、IM支援やオフィス環境に対する企業からの評価に繋がり、成長企業割合や会社設立支援数という成果に繋がっていく支援パス（道筋）が示されています。分析結果から考察を行うことで、現状で成果に繋がっている支援パスの強化や、繋がっていない部分を補完するといった実践的含意が得られます。



図：支援パスの図式化（基本モデル）

3 地域資源活用のストーリーづくりー実践教育のテーマとして

地域には様々な資源が存在するなか、大きな発展可能性を秘めながらも埋もれているものも数少なくありません。これらにいかに意味的価値を付加し、新たな経済的な付加価値を生み出す地域資源としてブラッシュアップするのか、「ストーリー性」が一つの鍵を握っています。ゼミでの実践教育のテーマとして、地域資源活用を掲げ、学生とともに活動を行っています。

ホームページ

研究者情報
https://srhumdb.miyazaki-u.ac.jp/html/100001475_ja.html

技術相談に応じられる関連分野

・中小ベンチャー企業の支援ー政策論だけでなく、個別企業の経営相談への対応
・ビジネスインキュベーション施設の成果や評価、入居・卒業企業に対する調査
・産学官連携に関わるコーディネート、マッチング手法

メッセージ

ビジネスインキュベーション施設の新規設置や機能再構築の計画がある場合はご連絡ください。設置機関や運営機関のコミットメントが第一ですが、現場・実践者、研究者の視点からアドバイス致します。